

ビジネス学部 カリキュラムツリー

ディプロマ・ポリシー (DP)

【幅広い教養】
ビジネスの諸課題を多角的に捉えるための幅広い教養を身につけている。

【ビジネスの基礎知識】
「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」分野の基礎的な知識を身につけている。

【専門性・課題発見解決能力】
「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」のうち特定の分野に関して知識を深め、課題を発見し、解決することに意欲を持ち、そのための能力を身につけている。

【情報の分析とマネジメント】
ビジネスに必要な定性・定量情報の分析・マネジメント能力を身につけている。

【リーダーシップ】
身につけたビジネスに関する知識・分析力、他者との協働の中で、発揮することができる。

CP4

・「専門発展科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の4つの分野に、主として学びを深めていくための専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の学修思考・関心・意欲や将来像に応じて、主として学びを深める分野（主専攻）を選択し、当該分野の科目を中心に履修しつつ、適切な履修指導のもと、他の分野の科目も履修することで、包括的な視点に基づく分野横断的な能力と選択した分野における深い知識や応用力を身に付ける。この科目群においても一段と高度な情報分析・マネジメント能力を専門的に磨くための科目を配置する。

・高度のリーダーシップ能力を身につけたい学生のために、「ファシリテーション基礎演習A,B」及び「チームコーチング基礎演習A,B」を配置する。これらの科目の履修を通じて、学生は、様々な組織において構成員のリーダーシップ能力を高める指導能力を獲得する。

・これまで学修した知識・技能等を活かしつつ、適切な指導により、学生が自ら設定したテーマを研究したり、身につけた協働力を実践的なものとするための「ゼミナール」を配置する。さらに、4年間の集大成として研究成果を論文にまとめ、成果発表までを行う「卒業論文」を配置する。そのため、専門発展科目のうち、「3年ゼミナール」、「4年ゼミナール」、「卒業論文」は必修科目とし、それ以外の科目は選択科目とする。

CP3

・「専門基礎科目」では、「専門基礎科目」で得た知識・技能との繋がりを意識しながら、3年次より主として学びを深めていく分野を選択し、専門性を発展させていく上で基礎となる、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野の基礎的な科目を、また、リーダーシップ能力を一段と磨くために「リーダーシップ開発基礎演習」を配置する。

・「専門基礎科目」においても、理論的知識を実践事例と関連付け、一段と高度な情報分析・マネジメント能力が身につけられるように工夫するとともに、課題発見・解決能力を育成するためのPBL型授業を随所に配置する。

・各授業科目の教育内容に応じて、他者の意見や考え方に触れたり、グループワークの結果を適切に表現したりするなど、ビジネスという広がりの中で、各分野の知識・技能の基礎を固めることを目的としており、すべて必修科目とする。

CP2

・「専門基礎科目」は、「経営」、「マーケティング」、「経済」、「会計」の各分野を学ぶ目的や学問体系を理解するため、導入教育の科目として「ビジネス入門」を、またビジネス全般で必要となる情報分析能力の基礎を身につけるための「ビジネスのための数学」を配置する。さらに、ビジネスという広がりの中で学びの土台を作るため、各分野に入門又は基礎的な科目を配置する。

・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性・コミュニケーション能力やリーダーシップを養うために、ビジネス学部独自の「リーダーシップ開発入門演習ⅠⅡ」を配置する。

・理論的知識を実践事例と関連付け、「ビジネスのための数学」等で身につけた情報分析能力が一段と高められるように工夫するとともに、リーダーシップ授業を含めて、PBL型の授業実施に注力する。各授業科目を通じて基礎的な知識・技能を身に付け、ビジネス社会への関心や意欲を高めることを目的としており、全て必修科目とする。

CP1

学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

協働とリーダーシップコア

- ・他者と協働しながら課題解決に導くための協働性・コミュニケーション能力やリーダーシップを養うために、「現代社会の諸課題」から2単位を選択必修とする。
- ・他者と協働し様々な課題解決を行なう中で、自らの価値観と多様な価値観を調整するために必要なコミュニケーション力やリーダーシップを身に付けることを目指して、PBL (Project Based Learning) の手法を用いて授業を行う。

創造とキャリアコア

- ・新たな価値を創造し社会と積極的に関わっていくための基礎的な力を身につけるとともに、社会人として必要な教養を養う科目群を編成する。
- ・英語においては、プレイメントテストの結果を踏まえた習熟度に基づくクラスを編成し、学生の習熟度や希望に応じて体系的に科目群を編成する。現代の社会生活で必要となる英語コミュニケーション力を身につけるために「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」「TOEICⅠ」「TOEICⅡ」を必修とする。また、今後、進展するグローバル環境におけるキャリア形成に必要な語学能力を養成するためにTOEICのスコアアップを目指す。
- ・情報リテラシーにおいては、情報化が加速する現代の社会生活で必要となる数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や技術、情報処理に関する知識や技術を身に付けるために、「データサイエンスとICTの基礎」「情報処理」を必修とする。
- ・幅広い教養を身に付け、多様な視点で社会を幅広く俯瞰し必要な教養を身につけるために「人間を理解するための教養」「社会を理解するための教養」「自然を理解するための教養」「身体と健康を管理するための教養」「キャリアを創造するための教養」より6単位を選択必修とする。

自律と努力コア

- ・初年次教育科目・キャリア教育科目として、客観的に物事を理解し、自己を確立し生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群を編成する。
- ・学生生活への適応、ライフプランやキャリアプラン形成のための「ライフプランと自己実現」、そして論理的な考え方や文章作成技術の修得、課題発見、課題分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の修得をはかるとともに、社会人として果たすべき責務を学ぶために、少人数制で行う「基礎ゼミナール」「課題解決ワークショップ」を必修科目とする。

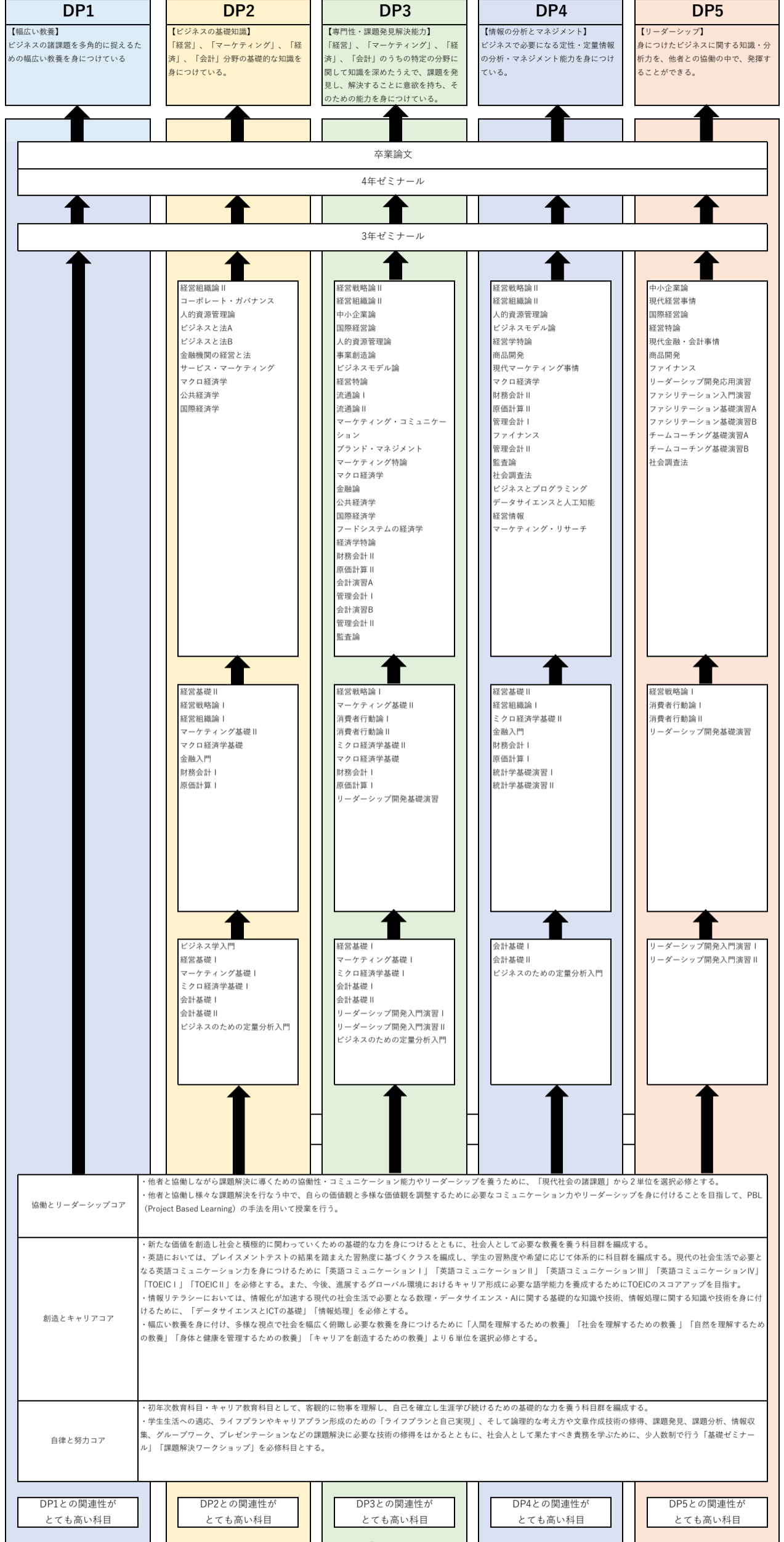
カリキュラム・ポリシー (CP)

アドミッション・ポリシー (AP)

【知識・技能】
・高等学校の教育課程を幅広く習得している。
・高等学校卒業までの学修内容のうち、「国語」と「英語」を通して、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力を身につけている。さらに「数学」を通して、論理的・分析的な思考能力を身につけている。また、「社会」を通してビジネスに関する基礎的な知識と興味を持っている。

【思考・判断・表現】
・ビジネスにおける物・カネの流れ、意思決定の単位である人・組織の行動、それらの相互作用に興味を持ち、これらに関する情報を的確に収集、分析し、関連する学修課題を主体的に持って最後まで取り組む意欲・能力を有している。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】
・他者との協働の中でビジネスの課題を解決するためのリーダーシップやコミュニケーション能力を高めていくことに強い意欲がある。



*各科目は「カリキュラムマップ」でディプロマ・ポリシーとの対応関係が「○」の科目を表しています。